令和７年度　学校評価自己評価表（川地小学校）

中期経営目標		短期経営目標	達成目標	取組・方策
【確かな学力】	基礎学力の定着とそれを基盤にした思考力・判断力・表現力の育成を図る。	協働的・主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・算数科の単元末テストにおいて、思考力・判断力・表現力の正答率の平均が75％以上の児童の割合を70％以上にする。 ・「『学びたい』と思うような課題を見つけられたと思う」児童の割合を 80％以上にする。（児童アンケート）	・既習事項が身に付くように家庭学習やドリルタイム、補充プリントの活用を工夫する。 ・1年間を通して3学年ずつの2つのブロックに分かれて、日常的に教材研究を行ったり、授業を見合ったりして授業改善を図る。 ・ふり返りを、自分の学びの視点から、また、新たな課題や疑問の視点で書かせる。 ・「やってみたい」「探究したい」という思いからねらいを見つけさせながら、自主学習に取り組ませ、評価する。
		自分の考えや思いを、適切な言葉を用いて表現する力を育成する。（表現・判断）	・自分の思いや考えを適切な言葉を用いて文章に表し、伝えることができる。 ・「算数の時間にみんなでいろいろな考えを発表し合うことが好き」な児童の割合を 80％以上にする。（児童アンケート）	・「かくぞう朝会」において、自分の考えを書いたり、書いた文章を交流したりして、相手意識をもった書き表し方ができるようにする。 ・ICT を活用して、自分の考えを比較・検討し、他者に伝わるように資料を効果的に示しながら表現させる。
【豊かな心と健やかな体】	共感しあい、主体的にたくましく生きる児童の育成を図る。	「共感力」「主体性」を意識し、高めようとする児童を育成する。	・あいさつ週間を設け、「①自分から②元気よく③目を見て」あいさつができたという児童 80％以上にする。（児童アンケート） ・「人」を大切にすることができたという児童を 80％以上にする。（児童アンケート）	・川地小のきまりにある「あいさつは、人と人をつなぐ『かけ橋』」、「返事は、相手と自分の気持ちを通じ合わせる『つながり』を作る　という意味と大切さをしっかり伝え、継続した全体・学級指導を行うことを通して、挨拶いっぱいの川地小学校をめざす。 ・人間関係づくりトレーニング等を通して、人との関わり方を深める取組を行う。そして、人との関わりについて学期に1回児童にアンケートを取り、自分を振り返る。
		自分の心や身体に関心をもち、健康づくりに取り組む児童を育成する。	・歯みがき週間において、「みがき残しの無いように歯みがきができた」と評価する児童の割合を80％以上にする。 ・いきいき姿勢週間において、学習中と食事中の「姿勢に気をつけて過ごすことができた」と評価する児童の割合を８０％以上にする。	・保健給食委員会の児童が主体となり、全校児童の健康意識を高めるための取組を行う。 ・歯みがき週間を通して、「歯ブラシを小刻みに動かす」、「いつも同じ順番で磨く」、「歯の形に合わせてみがき方を工夫する」ことで、みがき残しが無いように歯みがきができるようにする。 ・いきいき姿勢週間を通して、普段の姿勢を振り返り課題を見つけ、「気づいた時に直す」を意識することで、正しい姿勢の習慣を身に付けることができるようにする。
【信頼される学校】	保護者・地域から信頼され愛される学校をつくる。	保護者・地域の学校に対する満足度の向上を図る。	・保護者アンケート（年 2 回）で学校への満足度を90％以上にする。 ・各種たより、HP 更新を月1回以上行う。 ・小中・小小・保小・地域と連携した取組を学期に1回以上行う。	・学校だよりや学級通信、HP 等を通して、学校で取り組んでいることがよく分かるように情報発信する。 ・川地保育所との交流活動、青河小学校とのリモート授業、川地中学校区全体での共同活動など、具体的な取組を積極的に取り入れ、教育活動の質の向上やスムーズな接続を図る。 ・CS の発足に伴い、地域の方にも積極的に授業等に参加していただく場を設定し、教育活動の質の向上を図る。
		教職員の授業力と組織力の向上を図る。	・教職員アンケート（年 2 回以上）で肯定的評価している職員を 80％以上にする。（授業改善、情報共有し組織として機能、学校経営に参画、分掌の協力）	・各種研修会に参加し、学んだことを校内へ還流する。 ・校内研修において授業研究を行い、相互の授業を見合うことを通して、授業力向上を図る。 ・分掌部会を定例化し、それぞれの役割を自覚するとともに、分掌内で協力しながら組織的に業務を進める。